



今回は女性の病気の中でも、特に多いものについて考えてみましょう。それは子宮筋腫です。30歳以上の20〜30%、ごく小さな筋腫を含めると70%の女性が持つといわれています。20代の女性にもみられることがあります。

子宮は筋肉でできています。妊娠によって子宮が大きくなったり、出産の時に陣痛が起こるのも、この筋肉が伸びたり縮んだりするからです。子宮筋腫は、この筋肉の細胞が腫瘍になったものです。一つから複数の筋腫が発生しますが、良性の腫瘍です。その原因は分かっています。初経前には子宮筋腫はみられず、また閉経後にも新たな子宮筋腫の発生はなく、すでに存在する筋腫も縮小します。つまり、女性ホルモンが関与していることは確かです。

子宮筋腫



産婦人科医

今井篤志氏

子宮筋腫の半数以上が無症状で経過し、健康診断や他の病気の診察時に偶然、見つかる場合もあります。つまり、子宮筋腫があることに気付かないまま過ごしている女性が多いのです。代表的な症状は

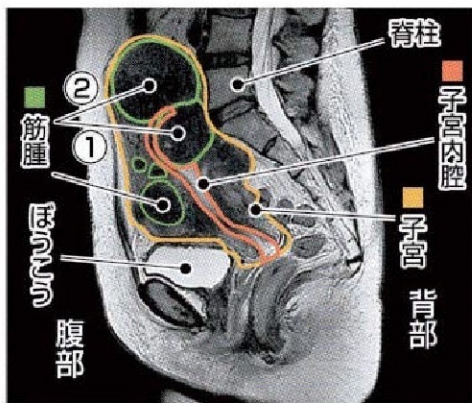
変形しますので、妊娠しにくくなったり、流産しやすくなったりします。

子宮の外側にできた筋腫だけの場合はかなり大きくなっても症状が生まれません。図②。普通、子宮は直径が3センチ前後ですが、10センチを超える筋腫を抱えるようになる人もいます。このタイプの筋腫は外から腫瘍として触れる程の大きさになっても、月経痛や出血などの症状がほとんどありません。

良性の腫瘍で、それ自体が生命を脅かすことはありませんが、治療が必要な場合があります。出血がひどくて貧血になったり、月経痛が強くて日常生活に支障をきたす場合には、治療の対象になります。また、筋腫があまりに大きくなると、直腸を圧迫して便秘になったり、ぼうこうを圧迫して尿が近くなったりします。月経時以外にも下腹部痛や腰痛などに悩まされることもあります。まれに肉腫(がんの一

女性ホルモンが関与

月経量が多くなることと月経痛ですが、筋腫がどの方向に育って行くかで、症状の現れ方にも違いがあります。子宮の内側に向かって発育した筋腫は小さくても症状が強く現れます。図①。内腔に筋腫が突き出てくるので、子宮内膜が引き伸ばされ、表面積がとて大きくなるため、筋腫が小さいうちから出血がだらだら続き、月経量が増えます。また、胎児が宿る子宮内腔が



種)などの悪性腫瘍の場合もあります(0.5%程度)。

定期的な検診を受けていれば、突然大きな筋腫が指摘される事態にはなりません。1〜2年に1回はがん検診がてら専門医の門戸を叩きましょう。(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)

半数以上は無症状で経過